



農業者年金推進活動の先進地

茨城県八千代町・栃木県農業会議へ

去る7月23日～24日、茨城・栃木での研修を実施しました。他県農業委員会との意見交換や耕作放棄地への取り組みを視察し、実り多い二日間となりました。

鶴岡市農業委員16名、事務局3名で農業委員県外研修を行いました。

一日目の研修先は、茨城県八千代町農業委員会。平成24年度の農業者年金の新規加入者数を33名確保し、全国第7位の実績を持つ委員会です。

◆白菜生産全国一の町

同町は関東平野のほぼ中央。首都近郊という立地条件を生かした農業を基幹産業としている県内有数の園芸産地です。特に「白菜」の生産量は全国1位の大産地。また農業の後継者は比較的多いが、労働力は不足しており、アジアからの研修生が活躍しているとのことです。また契約栽培が多いため、農業収入も多く、総農家数1,292戸の内、農産物販売金額が5千万円以上が36戸、1億円以上も3戸あるそうです。

なぜ、農業者年金への加入者が増加したのでしょうか。それは、支払った保険料が全額社会保険料控除の

対象になることから、経営規模が大きい農家ほど節税対策としてメリットになります。このことを、未加入者に周知徹底し、委員一人ひとりが加入推進に積極的に取り組んだ結果でした。制度を知ってもらうために、委員自ら手書きパンフレットを作成したりと、参考になる取り組みが行われていました。

◆夢のスローライフ

また、同町では、滞在型市民農園「クラインガルデン八千代」を整備。ドイツ語で「小さな庭」という意味で、農業を通して自然と人とのふれあいを深めている。



クラインガルデン八千代

く滞在型農園として人気があります。きれいに整備、手入れされた「小さな庭」に、皆非常に興味深く見学してきました。

◆耕作放棄地への取り組み

また、「農地流動化運営委員会」を設置し、集積目標面積の目標達成に向け、事業を推進していました。

さらに、農地を流動化するにあたり同町では、「農地流動化借り手助成金」を交付しています。経営規模を拡大し、生産性の高い農業経営を目指す農地の借り手農家には年間200万円の範囲内で交付しています。

耕作放棄地の解消とこれ以上の増加を防ぐ努力をしていると説明を受けました。それぞれの組織の違いや活動内容について有意義な話し合いが行われました。

◆栃木県の現状

二日目は栃木県農業会議を訪問。農業者年金の加入状況や加入推進対策の説明を受けました。特に栃木県ではJAとの連携による加



八千代町会長のていねいな説明

入推進で実績を上げており、JAの青年・女性部や各種部会、簿記講習会等を活用した加入推進を行っています。認定農業者や女性農業者の参加する各種会合での働きかけが必要だと再確認することができました。

この二日間の研修は各地域の農業、それを取り巻く環境の違い、また、農業委員会、農業委員の活動の違いや興味深い事業など得るものが多く、今後の委員の活動に役立てたいと考えています。

(農業委員 菅原 一幸)

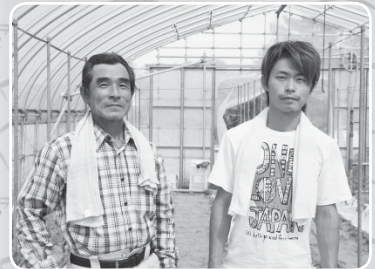
新規就農で地元へ

鶴岡西郷地区で農業を営む本間さん親子。今年設立した農業生産法人「しもがわ」の構成員として水稲を手掛け、ハウスではメロン・ミニトマト等の栽培をしています。

隼平さんは、東京での勤務を経験した後、地元に戻り就農しました。当初は父、洋さんの指示を受けながらの手探り状態でしたが、2年目からはミニトマト部門を独立し、産直への出荷などは一手に引き受けています。

農業者年金の魅力

農業者年金には父、洋さ



鶴岡 下川 本間 洋さん (55才) 本間 隼平さん (26才)

んの薦めで加入しました。農業者は国民年金だけで企業年金もないので将来に不安があるとの思いからでした。

親子で家族経営協定を結んだことにより、政策支援による国庫補助を受けています。「収支も部門で分けているため、確定申告する際は、保険料分が全額控除になるのがありがたい。自由に保険料額を変更できるのも魅力。」と農業者年金について話してくれました。家族経営協定では、役割分担や休暇についても盛り込まれているため、週一日は休暇があり、サッカーを楽しんだり、友人と車で遠

出をしたりトリフレッシュしているそうです。

将来をきちんと設計

「毎年同じように栽培しているつもりでも、天候に左右され味が変わってくる。安全・安心で美味しいと言ってもらえる作物を作っていきたい。」とメロン栽培に情熱を燃やす洋さん。その傍らで「幼い頃から父と母を見てきた。父母の今までの経験を参考にしながら現状を維持していきたい。でもいつか規模を拡大していけたら。」と大きな夢を持つ隼平さん。後継者として、地域の担い手として真面目で前向きな姿勢がうかがえました。



ハウスの中で作業する隼平さん

備えて 安心!

あなたも 農業者年金 に加入しませんか?

- 農業に従事している20歳から60歳未満の方は、どなたでも加入できます。
- 生涯受け取れる年金です。
- 積立方式の 少子高齢化時代に強い年金です。
- 税制上の優遇措置があります。
- 認定農業者等の担い手には 保険料の国庫補助があります。

お問い合わせ・ご相談は農業委員会または最寄りの農協まで。

詳しく知りたい方は、農業者年金基金のホームページをご覧ください。

《農業者年金基金ホームページ：http://www.nounen.go.jp》

農業委員会総会開催される

活動方針・建議書を採択

鶴岡市農業委員会第4回定例総会が4月26日に出羽庄内国際村で開催されました。提案された議案については次のとおりです。

○平成25年度鶴岡市農業委員会活動方針

○平成24年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価

○平成25年度の目標及びその達成に向けた活動計画



○TPP（環太平洋経済連携協定）交渉から撤退を求める建議書

○多様な担い手確保に向けた農業政策の確立を求めるとの要望書

○農業法人の農業者年金制度に関する要望書

慎重な審議を行った結果、6件全ての議案が全員賛成で決議されました。



◆国に対して要望

TPP交渉に参加することは、日本の農業・農村に大きな打撃を与えるものであり、参加に抗議すると共に撤退を求めました。

また、新規就農者及び集落営農組織に向けた農業機械・施設などの導入に対する補助事業の継続や、青年就農給付金については実態に即した緩和を、さらに、農業者年金の政策支援の対象者として農業に従事する農業法人の構成員も含めるよう要望しました。

これからも鶴岡市の農業が活力にあふれ、発展していくように、農業施策の充実に向け国や県・市に建議要望を提出していきます。

（建議・要望については農業委員会ホームページでも紹介しています）



野菜不足を解消！忙しいお母さんのための簡単レシピ

野菜いっぱい食べれるレシピ大募集！

私たちの住んでいるここ鶴岡は、海・山・川・平野と自然に恵まれ、新鮮な食材がたくさんあります。しかし、この恵まれた環境にしながら野菜の摂取量をみると庄内地方が県内で一番少ないという調査結果が出ています。そこで今回は野菜に着目し「野菜をいっぱい食べれるレシピ」を募集します。地元でとれる野菜をいっぱい使った、ご飯のおかずになる料理のレシピをお寄せください。締切りは10月25日(金)です。

最優秀賞、優勝賞には賞品を、応募者全員に粗品を贈呈します。また、入賞したレシピは、この紙面や農業委員会HP等で紹介させていただきます。詳しくは、農業委員会事務局、または各庁舎農業委員会分室にあります応募用紙をご覧ください。皆様のご応募をお待ちしております。

農業委員会 食育・地産地消専門委員会

あとながき

6月までの忙しい時期をなんとか過ごした後の7月、8月は段取り良く作業を行い、余裕がある時期にしたい・・・と毎年考えるのですが、いざ夏になると結構余裕がない。分施草刈、防除はもちろんのこと、中学校の部活動遠征や小学校の海水浴、夏休みの自由研究や工作の手伝い、果てはカブトムシを捕まえる手伝いなどなど。
ただ、こうやって文字にしてみると、自分が思っていたよりまだまだ余裕がありそうです。皆さんも収穫の秋に向かって余裕をもって頑張りましょう！

（新館 登）